

和顔愛語

子どもに「感動」を与える学校

教職員が「敏働」を共有する学校

地域・保護者、教職員の「汗動」にささえられた学校



令和4年4月1日 校長 発行

教師五者論（こんな教師に）

私たち教師は、子どもたちの未来に大きな影響を及ぼすことができる素晴らしい職業だと思います。それゆえに、教師には多くの技量が要求され、教師自身が、日々、勉強・研修することが必要です。お互いの授業を見せ合い、他の教師の良い点を研究・研修できる場づくりも大切になります。

「教師は五者であれ」と言われています。

- 第一、自分の専門分野の学問に通じた「学者」であれ。
- 第二、朝の会で生徒の顔色を見て健康状態を把握できる「医者」であれ。
- 第三、生徒の個性をつかみ、将来の適性を見抜き、進路指導に生かせる「易者」であれ。
- 第四、生徒を引きつけ、楽しい授業を展開できる「役者」であれ。
- 第五、学びの場を楽しみに変える「芸者」であれ。

「学者」

授業が教師の生命線です。人にものを教えるのであれば、膨大な知識を身に付ける必要があります。生徒に「1つの事」を教えるのではあれば、背景知識として「100の事」を知っている必要があります、専門性を高めることが大切です。



「医者」

これは、「相手の性格やタイプを見抜く力」です。タイプや性格を素早く見抜き、その良さを伸ばし、短所を修正する力のことです。また、生徒の様子から健康状態や精神状態を把握する生徒理解も大切です。



「易者」

これは、「相手の不安を取り除く力」です。生徒の個性や性格をつかみ、「あなたなら絶対できる」と自信を持たせることが大切です。



「役者」

これは、「相手を引きつけ、魅了する力」です。抑揚や間の取り方など話し方に気を配る、表情を豊かにする、場の盛り上がり方を上手にコントロールすることが大切です。



「芸者」

これは、「学びの場を楽しみに変える力」です。タイミング良く「笑い」を盛り込むスキルで、「教えること」と「笑わせること」の2つを上手に混ぜ合わせることが大切です。



※ 私は、最近、「技を使って、生徒の心ところに入って情報収集し、生徒理解を図る」ことも大切で「忍者」であれ、と思っています。

まずは、最初の学級開きや教科の授業で役者になってみてはどうですか？